

おらほの病院

104

「あたたかな医療をめざして」

諏訪中央病院 リレーコラム

私のライフワーク 肝胆膵がん



飛田 浩輔

(とびた こうすけ)

外科部長。東海大学
医学部肝胆膵外科科で
33年肝胆膵がん手術。
令和5年より諏訪中央
病院。

北杜市からの通勤時間45分は「大変ですね。遠くて」と心配されるが、車中曰替わりで表情を変える八ヶ岳、南アルプス、富士山、北アルプスの遠景を望むことができ本当に癒やしである。さらに、大曲で知られるマラーやブルックナーの交響曲を聞きながら通勤すると、これが美しいタイナミックな山々の景色に実にマッチし、身も心もリフレッシュして仕事に臨める。今日は、私のライフワークを紹介しようと思う。

1. 肝胆膵臓器

消化管へ消化酵素を提供したり、ホルモンを分泌したり、消化管から吸収された栄養を人間の生活に必要な様々な物質に合成製造する機能の臓器である。胃や大腸は全摘出が可能であるが肝胆膵は全摘出ができない。膵臓は全摘出できるがホルモンや消化酵素の代替管理は超困難である。この臓器にメスを入れることは、がんの根治目的に加えそれらの機能を温存する工夫と技術が必要になり、肝胆膵がん手術は消化器を専門とする外科医の中でも高難度手術に分類される。

諏訪中央病院 外科部長

とび た こう すけ
飛田 浩輔

2. 肝胆膵がんの特徴
なんとと言っても沈黙の臓器と言われ早期発見が難しく、そのため他のがんと比較して治療成績が悪い。胃がん、大腸がんの5年生存率は各々66・6%、71・4%であるのに肝がん35・8%、胆道がん24・5%そして膵がんは8・5%と極めて低い。そもそも膵がんは手術対象となる

る切除可能な症例は全体の15・20%と言われており生存率を延長するためには、如何に切除可能な膵がんを早期発見するにかかっている。

現したら速やかに専門施設受診をお願いしたい。予後不良な膵臓がん診断の、キーワードは膵炎・糖尿病・家族歴である。血縁家族に膵がん患者がいるときは、家族性膵がんとして発症するリスクが高く、がん年齢になったときに膵がんを意識した定期健診が必要で、専門医に相談するのが良い。

肝胆膵外科医を専門にして33年間、700名を超える肝胆膵がん手術を執刀してきて、これは私にとってライフワークであったと同時に、試練の道でもあった。全手術の70%近くが膵がん症例で、テレビのヒーローのように100%失敗しない手術はあり得ない。手術をすべきか？苦渋の選択を迫られる症例も多く、正直肝胆膵がん患者で真に救えたのは半数にも至らない。手術自体の危険、術後の再発の脅威、再発予防の抗がん治療のストレス、それら乗り越えても完治に至らない患者が多々いる中、完治を信じて患者と一緒にがんばるのみ。結局がんは何よりも早期発見が重要。詳細は来る5月21日に諏訪中央病院講堂にて、ほろ酔い勉強会を開催しますので皆様のご参加をお待ちしております。

3. 肝胆膵がんはどこで治療するか？
がんの悪性度が高くかつ高難度手術である以上、まず手術経験豊富な施設医師を選択することが重要である。進行がんになればなるほど、手術のみではなく抗がん剤や放射線治療を組み合わせた集学的治療が必要になることもある。がん診療拠点指定病院ならまず安心だが、胆道学会や膵臓学会が認定する指導医は参考になる。胆道学会が認定した胆道がん外科治療指導医は、長野県には私を含め4名、膵臓学会認定膵臓外科手術指導医は、私を含め5名いる。指導医は多数の胆道がん膵がん手術経験があることをリアルタイムで学会が認定する経験豊富な医師なので参考にしていただきたい。

4. 予防早期発見の道
沈黙の臓器肝胆膵がんでは、超音波検査が発見に繋がることが多い。肝機能異常や黄疸が出

第272回
ほろ酔い勉強会

2025
5/21 (水)
14:00~15:30
【会場】
諏訪中央病院
講堂

もったいない！
がん情報第2弾

「がんて上手に付き合えば…」



【講師】
諏訪中央病院外科部長
飛田浩輔医師

予約不要
入場無料

ご来院の際はマスク着用をお願いいたします

お問合せ先：諏訪中央病院 広報課 0266-72-1000 (内線1557)
病院ホームページ：www.suwachuo.jp 主催：諏訪中央病院

諏訪中央病院
Suifu Central Hospital

次回6月1日掲載予定
(題字は鎌田實名書院長)